

関係住民の声をしっかりと聴いて対応を 経営危機の第三セクターをどうするか

前号に続いて、私の総括質疑についてお知らせします。今回は第三セクター問題と新上越斎場についてです。



この2法人が債務超過となるなど、第三セクターの経営の健全化が喫緊の課題となっている。第三セクターが担う事業そのものの必要性や公益性などについても改めて検討を行い、事業継続の是非や事業手法の選択について、第三セクターの存廃も含めて判断したい。

総務省から、債務超過などの相当程度の財政的リスクが存在する第三セクター等は、「経営健全化方針」を速やかに策定し、公表するよう求められている。現在、債務超過となっている「リフレ上越山里振興(株)」について、「上越市第三セクター等経営検討委員会」のご意見も聞き、策定作業を進めている。

J・ホールディングスも、事業子会社7社のうち4社が赤字を計上するなど、いまだその効果が発現するに至っていない。同社には、経営改善に向けた取組の1層の強化と、不断の努力が求められるものと考えている。あわせて、同社についても、今後の市の対応方針を整理してまいりたい。

【橋爪】 J・ホールディングス自体も昨年4月時点で約4000万円(今年4月時点で約5900万円)の欠損金を出している。話にならない。場合によってはJ・ホールディングス自体の存廃も含め考えるべき時期なのではないか。

【村山市長】 第三セクターに毎年2億円以上、この5年間でJ・ホールディングスの7社に1億円以上の指定管理料が

投入されてきた。

民間では考えられない指定管理料が投入されて成り立っている。それでも経営が改善されない。その運営はどうだったのか、効果はどうだったのか、総論で語るのではなく個別に検討すべき時期に来ている。



【ヒヨドリバナ】 キク科の多年草。漢字で「鶉花」と書きます。大島区田麦の日当たりのいい農道脇で見つけました。花は白が多いのですが、これは少しピンク色です。花言葉は、「清楚」「期待」。6日の午後、撮影しました。

【橋爪】 第三セクターが設立された時の様々な経緯がある。関係住民の声をしっかりと聴いて対応すべきだ。
【市川産業観光部長】 しっかりと理解を得て進めるべきものと考えている。

新斎場整備で合併特例債の活用は可能

一昨年から揺れ続けた斎場整備問題。私はこれまでの検討結果の概要と方向性を聞きました。

村山市長は「新上越斎場建設事業と頸北斎場の今後のあり方は、それぞれ別の問題として切り離し、頸北斎場については、適正な施設管理の下で、更新時期を迎えるまでの間は、これまでどおり運営する」「新上越斎場の整備については、必要とする施設能力と、それに伴う火葬炉の数などについて検討を進めてき

た。財源確保についても、改めて新潟県との間で、合併特例債の活用が可能か、事前の相談を重ねる中で、前向きな回答を得た。新上越斎場の整備方針案は本年中に議会、市民の皆さんに示したい」とのべました。

斎場整備で揺れ続けた原因の一つは財源問題でした。私は、「合併特例債の活用について、日本共産党議員団の指摘に基づき、もっと早く総務省に問い合わせれば混乱しなかったはずだ」と追及しました。

これに対して池田財務部長は、「県の当初の見解は(頸北斎場を残しての)合併特例債の活用は難しいということだった。今年の3月、利用サービスの格差解消という観点から合併特例債の活用が可能となるのではという見解を得た」と答えていました。もっと早く対応してほしかったですね。



写真は昨年3月柿崎でのシンポジウム

はしづめ法一の
活動レポート

No.1875 2018.9.16
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL http://www.hose1.jp/

ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一 検索

幼友達というのは高齢になると家族のよ
うに大切な存在になるのでしようか。母の
実家のすぐ隣の家で生まれ育ったキエさん
と母の交際の様子を見てみると、いつもそ
う思います。

秋の農作業が始まっていたある日の夕
方、母を軽自動車に四〇分ほど乗せて大島
区板山の「杉」（屋号）のキエさんのとこ
ろへ行ってきました。母にとっては九か月
ぶりの再会です。

訪ねた時間は午後四時一五分前。出かけ
る少し前に、「おらちのばちや、おまんち
へ行きたいがだけどいいかいね」と電話
を入れておいたのですが、その連絡が大急
ぎで食べ物の準備させてしまうことになっ
たようです。キエさんは、飯台の上にカボ
チャの煮物、一口メロンなどたくさんのご
馳走を用意して待っていてくれました。

「まあ、おまんばつかしや、なんもいらん
がに。ごつつお、作ってくんたが」母はそ
う言いながらも、出してもらったばかりの
サワナの煮物にすぐ手を伸ばしました。母
の声が聞こえなかったのでしょうか、キエ
さんは母の質問に答えず、「ああ、いかつ
た。会わしてもらわんて」と言いました。

二人のしゃべる様子を聞いていたら、裏
山が見える窓から風がスーッと部屋に入り
込んできます。気温が下がって、寒いくら
いです。「さぶくねかね」「さぶくね」と
いう二人の言葉が聞こえてきました。

キエさんは顔の色つやがよく、とても元
気そうでした。久しぶりにキエさんの顔を
見た母がいきなり、「おまん、若い時から
きりようよしだった」と言いました。それ
にはキエさん、すぐ反応して、「なし
てえ、おら、みったくなしと言わんたも
ん」と言って笑います。

お茶を飲み始めてから間もなく、母が

「お茶、うんめわ」と言ったことから、台
所で使っている水のこと話題になりました。
私も初めて知ったのですが、かなり遠
いところの山から水をひいているのです。
キエさんは母に向かって、「おまん、
知ってるろね、タケノコ採りに行った山か
ら水、きてるがど」と言いました。タケノ
コなんて言えば、山菜採り大好き人間の母
の気持ちは高ぶります。

「タケノコ、いまは、ないろ」と母が言
うと、「なして、Hさんなんか、百本もビ
ン詰しなつたよ」とキエさんが答えまし
た。たぶん、母は、来年の春には行ってみ
たいと思つたに違いありません。

お茶に使う水がうまいという話になれ
ば、次は飯台の上の料理の話です。キノ
コ、ゴボウ、ニンジン、豆腐、豚肉などが
入った煮物を前に、キエさんは、「やわら
かいすけ食べて」と勧めます。母が再び、
「おまん、ごつつお、してくんなつたが
ね」と言うと、キエさんは「なして、ガ
チャガチャとやっただけだ」と答えまし
た。私もご馳走になったのですが、味は抜
群、皿にいただいた煮物は遠慮しないでた
いられてしまいました。

この日もやはり、若い頃の話が話題に
なりました。「おまん、乳、でつけかつた
ねかね」と母が言うと、キエさんが「乳、
でつかくね。さし乳だったけどよく出た。
タオルあててもびしょ、びしょになった」
と言つてまた笑いました。

キエさんの家には一時間ほどおじやまし
ました。キエさんは「おもいつけもね、会
わんていかつた」と繰り返しました。そし
て最後、サヨナラするときのことです。キ
エさんは道の真ん中まで出て、「たっしや
でねー、氣いつけてね」と声をかけ、車が
見えなくなるまで見送ってくれました。

消防フェスに初参加

9月9日は上越地域消防事務組
合の消防フェスティバルでした。
まず応急手当のコーナーへ。若
い消防職員が腹話術で子どもさん
たちなどに声をかけながら説明し
ていました。いつも笑顔で、語り
もわかりやすい。続いて特別救助
隊員のチームによる様々な救助訓
練を見ました。壁の駆け上がり
にせよ、ロープ登りにせよ、すごいスピード
でしたね。命を救う最前線の仕事だ
と思いました。
子どもたちの参加が多いのにはびっ
くりしました。将来が楽しみです。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における 空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシー
ベルト。1時間当たりの測定量です。
消防署によると、通常は1時間当たり
0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だ
とのことです。

	9月5日(水)	9月12日(水)
上越南消防署	0.050	0.043
上越北消防署	0.057	0.040
新井消防署	0.050	0.047
頸北消防署	0.040	0.050
頸南消防署	0.063	0.040
東頸消防署	0.047	0.043
高士分遣所	0.053	0.050
名立分遣所	0.047	0.053

高士小児童がスライド

9日の「川上善兵衛生誕150
周年記念トークセッション」の三和の桑原圭司先生が
講演でワイン造りに命をかけ
た川上善兵衛の生涯をわか
りやすく解説してください
ました。そして地元、高士
小学校の6年生たちがいい
仕事をしてくれましたね。
善兵衛さんの生き方を探
り、自分たちが地域にどう
貢献していくべきかを考
える同校の総合学習のいろ
んな場面をスライドで映し
だし、説明してくれたので
す。地域学習のあるべき姿
を浮き彫りにしました。

